

研修参加報告書

令和6年8月19日

会派名 江南クラブ
会派代表者 稲山 明敏

参加者：藤岡 和俊、牧野 行洋

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和6年8月8日（木）～9日（金）
研修時間	8月8日（木）13:00～17:30 8月9日（金）9:25～15:00
研修場所	全国市町村国際文化研修所（JIAM）
研修内容	令和6年度 市町村議会議員研修 [2日間コース] 「自治体予算を考える」 8月8日（木） 13:00～14:00 自治体予算の原則 14:15～16:30 歳入・歳出予算の基礎とそのチェックポイント 16:45～17:30 グループ討議 武庫川女子大学経営学部 教授 金崎 健太郎 8月9日（金） 9:25～12:00 財政の現状把握～財政診断・地方公会計の活用～ 13:00～15:00 意見交換/発表・質疑・まとめ 武庫川女子大学経営学部 教授 金崎 健太郎

研修参加報告書

■目的

旧自治省、地方自治体の職員、副市長、政府機関、大学教授と幅広くキャリアを築かれ、現場と理論の双方を知る金崎教授から、自治体予算に関する知識と状況を学び、市議会議員として、さらなる能力を獲得するとともに、他の議員との交流を通して、知見を深める。

■内容

令和6年度 市町村議会議員研修 [2日間コース]

「自治体予算を考える」

武庫川女子大学経営学部 教授 金崎 健太郎

8月8日(木) 13:00 ~ 14:00

自治体予算の原則

予算の原則や編成の流れなどの予算制度を解説いただき、予算書の読み方やその機能を解説。

14:15 ~ 16:30

歳入・歳出予算の基礎とそのチェックポイント

歳入・歳出予算の基本的な構造や考え方と、予算計上にあたってのチェックする際にポイントとなる事項や留意点などを含めて解説。

16:45 ~ 17:30

グループ討議

各自が問題意識を持つテーマごとに分かれ、グループでの意見交換を行う。

8月9日(金) 9:25 ~ 12:00

財政の現状把握～財政診断・地方公会計の活用～

健全で持続可能な財政運営のために、自治体財政の診断や分析の手法を解説。

地方財政の適正化・効率化に貢献する地方公会計の基本的事項と地方公会計の活用について解説。

13:00 ~ 15:00

意見交換、発表・質疑・まとめ

前日の意見交換の内容を各グループでまとめ、発表や質疑等を行うことにより受講者全員で情報を共有し、2日間の研修を総括。

■所感

○自治体予算の原則

予算の種類・ルール、会計年度独立・総計予算主義の原則、予算の提案と議決、執行部内の予算編成から決算までの流れ、議会における予算審議、専決処分など、地方自治法に基づく、自治体予算の原則を基礎からわかりやすく解説された。

この1年、市の予算・決算のチェックを続けてきたので、流れはわかっていたが、体系的な説明により、理解が深まった。

○歳入・歳出予算の基礎とそのチェックポイント

市当局から提示される予算に関する資料の種類、予算の各項目の内容、チェックポイント、地方交付税の仕組みと計算方法、臨時財政対策債や地方債について、わかりやすく解説された。

予算の内容における歳出予算の「予算間の流用」という項目が職員給与などを含む理由が、職場間における職員の異動による計算等の手間を省くためであること、地方交付税の財源が所得税・酒税など5つの税から来ていること、その算出計算式は各地域特性を考慮しており、小学校費や消防費にも用いられていること、地方交付税の不交付団体が東京都・愛知県に多いこと、地方債については、世代間の公平や安易な借金増加への警戒を考慮したルールが定められていること、人件費の水準を図るラスパイレス指数など、予算をみる知識が深まった。

○グループ討議

翌日のグループ討議に備えて、各チームのメンバーが自己紹介、討議課題の提案などを行った。

○財政の現状把握～財政診断・地方公会計の活用～

夕張市の破綻の後に作られた健全化判断比率は、一般会計などに加えて、公営企業や国保事業などが入る公益事業会計、一部事務組合、地方公社・第三セクターを加えた会計から計算する将来負担比率を含む4つの指標からなり、それぞれの計算方法を学んだ。地方公共団体の財政健全化を促す法律と全国の公営企業会計の状況の説明を受けた。

また、東京都が開始し、後に国がやり方を定め、各自治体が財務諸表を作成しているが、現状、膨大な手間とコストをかけた割に活用されておらず、今後期待されることなどを知った。

○グループ討議/発表・質疑・まとめ

歳出の効率化について、5人のメンバーがそれぞれ意見を出し合った。

私の所属したグループにおいて、DXを始めとしたデジタル化が重要であるという話になり、現代に合わない制度や手法が残っているのが問題で、現代に合わせた制度に変更できる首長が就任する事と女性議員数の拡大が重要であるという意見が出た。

その例としては、全国から視察が訪れている横須賀市が取り上げられ、市民サービス向上のためのDX・AI活用を政策として掲げた、改革を志す市長が、外部のIT人材採用と専門部署を設立し、市の業務のDX化とAIの活用を進めている事例が紹介された。

○その他

「市当局が感心する議員からの質問はどのようなものか」という問いの回答において「市当局は、個々の部署の視点で事業を作成していくが、全体の事業を見渡した上で指摘する『森』の視点を基に質問されると参考になる」と答えたのが印象に残る。